別冊８

託麻南校区　地区防災計画

～みんなで守る、わたしたちのまち～

託麻南校区防災連絡会
令和8年(2026年3月)

はじめに

私たちの暮らしは、地震や大雨などの自然災害と常に隣り合わせにあります。万が一のときに落ち着いて行動し、大切な命や日常の暮らしを守るためには、日ごろからの備えが大切です。

本計画は、託麻南校区において災害への備えや、今後やるべきことをまとめたものです。校区住民の皆さまが共通の認識を持つことで、いざというときに支え合える体制づくりを目指しています。

災害への備えは、一人ひとりの心がけの積み重ねによって支えられます。本計画を日常の中で活用していただきながら、安全・安心なまちづくりに取り組んでいきましょう。

この防災計画は託麻南校区住民の皆さまのために作成されたものです。
皆さまの防災の一助となれば幸いです。

地震時の避難所の様子
熊本災害デジタルアーカイブ／平成28年熊本地震（提供：神奈川県大和市）

令和8年（2026年）3月
託麻南校区防災連絡会

目次

1 校区の特性・・3

2 託麻南校区防災連絡会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

3 校区の課題・・9

4 校区のルール・・11

5 校区のやることリスト・・・12

6 今後の取り組みについて・・13

7 防災に役立つ情報・・13

1 校区の特性

〈地形特性〉

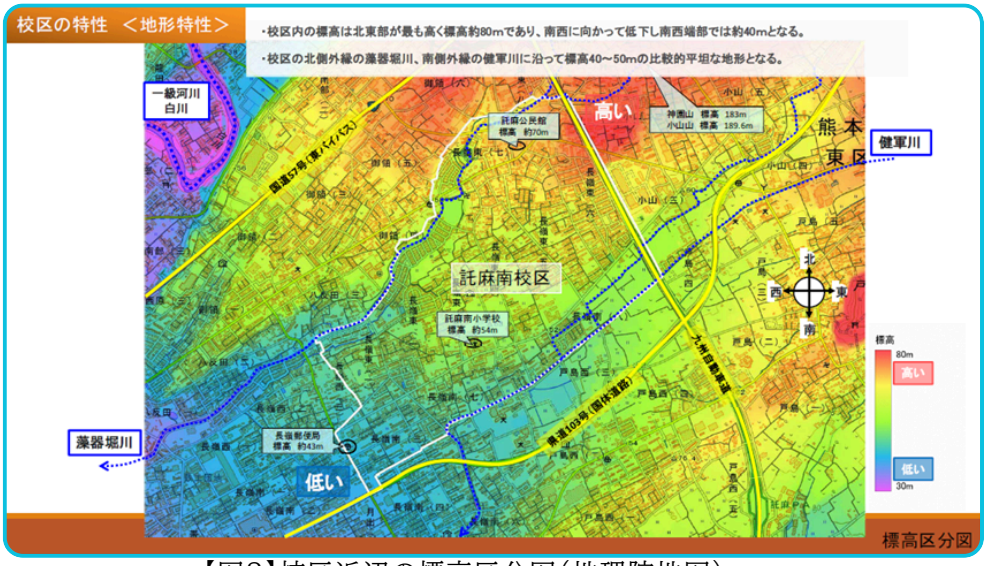
●託麻南校区は、熊本市の東部に位置する静かで落ち着いた住宅街です。

東側には高速道路（九州自動車道）、地域の中心には熊本県道103号熊本空港線（通称：第一空港線）が走っており、交通の便が良く、暮らしやすい環境が整っています。

●校区北側には藻器堀川、南側には健軍川が流れています。【図1】

【図1】校区周辺の地図（地理院地図）

●校区内の標高は、北東部が最も高い標高80mであり、南西に向かって低下し南西部端では、約40mとなっています。【図2】



【図2】校区近辺の標高区分図（地理院地図）

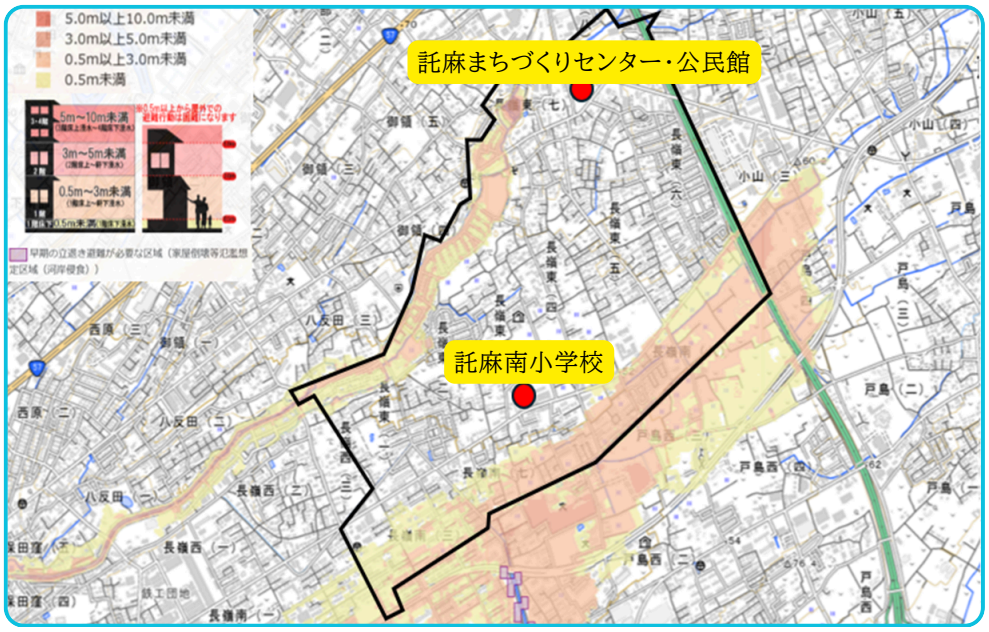
〈災害特性〉

●平成28年熊本地震を引き起こした布田川断層帯など活断層が周りに分布する「主要活断層帯」に位置するため、これらの断層に起因する地震が発生した場合、大きな地震が発生する可能性がある地域です。

また、校区の大部分が比較的標高の高い台地ではありますが、河川沿いの低地での氾濫、低地と段丘面の崖面の崩壊、密集した道路・交差点での内水氾濫の可能性が考えられます。【図3】

【図3】校区近辺の活断層分布図（地理院地図）

●校区の主な避難所は、**託麻まちづくりセンター・公民館**と**託麻南小学校**の2カ所が熊本市指定の避難所として指定されています。【図4】



【図4】熊本市ハザードマップ（熊本市HPより抜粋）

〈過去の災害写真〉

平成28年4月熊本地震

山積みになった災害廃棄物の様子

被災した藻器堀川護岸の様子

熊本デジタルアーカイブ/平成28年熊本地震（提供：富士マイクロ株式会社）

令和7年8月豪雨

健軍川の様子（上原第2号橋から南西側方向へ撮影）

平常時

大雨時

健軍川（上原第2号橋から北東側方向へ撮影）

平常時

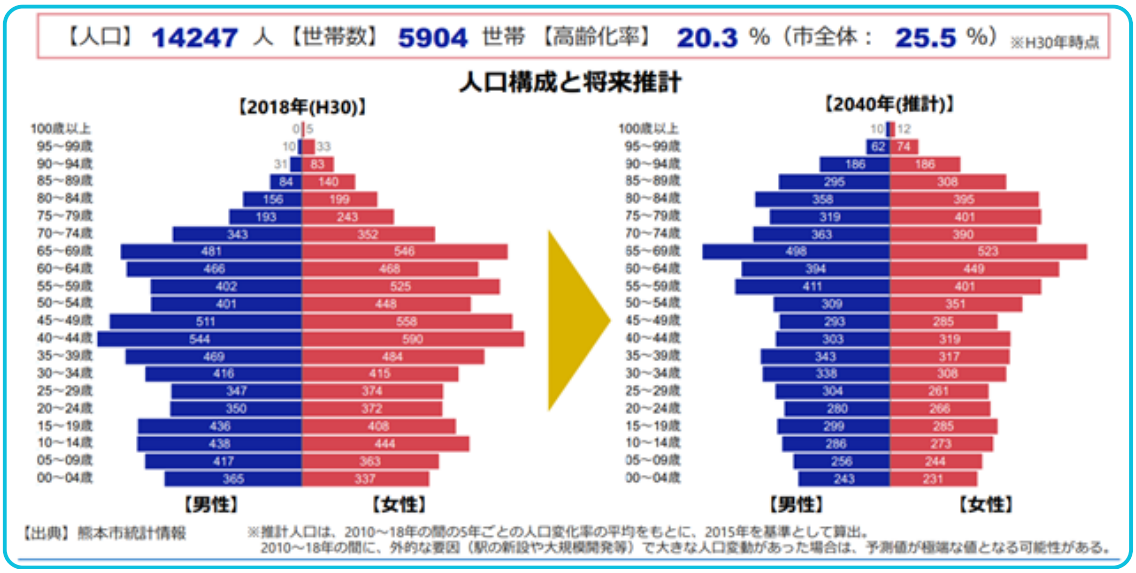
大雨時

長嶺中学校グラウンド

資材が流された後の健軍川工事現場の様子

写真提供：校区住民

〈人口特性〉



【図5】託麻南校区の人口構成と将来推計（「校区健康カルテ」より［令和5年（2023年）時点］）

【図6】独居高齢者世帯の割合

校区人口は14,638人、6,437世帯の方が託麻南校区に住んでいます。

男女別の年齢区分は【図5】のとおりで、女性が多く、他校区と同様、2040年には60代が増える見込みです。

一人暮らしの高齢者の割合としては、【図6】のとおり市や東区の平均と比べると6.9％と少ない割合となっています。

避難行動要支援者制度対象者数（託麻南校区）

569名

（令和7年（2025年）1月1日時点）

2 託麻南校区防災連絡会について

平成30年（2018年）
　8月　託麻南校区防災連絡会　発足

令和元年（2019年）
　8月　託麻公民館と託麻南小避難所運営委員会を設立

令和2年（2020年）
　3月　避難所運営マニュアルを作成

令和4年（2022年）
10月　避難所開設模擬訓練を実施
　　早稲田大学院生の視察受け入れ

11月　県営八反田団地　防災（水害）訓練を実施

令和6年（2024年）
　　熊本市地域防災活動の東区優良事例として表彰

感謝状

託麻南校区防災連絡会様

貴団体は地域の安全安心のため
防災活動に熱心に取り組まれ
本市の地域防災力の向上に
多大なる御貢献を賜りました
よってその御尽力に対し深く
敬意と感謝の意を表します

令和六年三月二十五日

熊本市長　大西一史